# 目　次

1 オスマン帝国～トルコ共和国・サウジアラビア現代史…………………… p 2

2 エジプト史……………………………………………………………… p 7

3 イェルサレム・パレスチナ史…………………………………………… p 8

4 イラク・イラン・アフガニスタン近現代史 ………………………… p11

5 アフリカ分割とアフリカ現代史 ……………………………………… p15

〈予習の仕方〉

空欄に適切な語句を入れなさい。全ての下線を点検しなさい。各ページに必ず1つ下線に誤りがあります。選び出し訂正しなさい。何も見ないでやってみるもよし，持っている教材をいろいろ見ながらやるもよし，いずれにせよ，必ず自力で解答してから受講するようにして下さい。

## 1 オスマン帝国〜トルコ共和国・サウジアラビア現代史

13世紀の小アジア(アナトリア高原)はキリスト教徒とイスラーム教徒の最前線。そのイスラーム戦士(ガーディー)のオスマン＝ベイがオスマン帝国(1299〜1922)をつくった。

３代目スルタンのムラト１世はヨーロッパ側を征服し小アジアのブルサからアドリアノープルに遷都しエディルネと改称した。1389年のコソヴォの戦いではセルビア王国に勝利した。その600年後の1989年にユーゴスラヴィアの指導者はセルビア人のナショナリズムを高揚させた。

【バヤジット１世】　４代目スルタンであだ名は「電光」。1396年のニコポリスの戦いでハンガリー王のちになる神聖ローマ皇帝ジキスムントを破ったが，1402年のアンカラの戦いではティムールに敗れ捕虜となり帝国は中断した。

【メフメト２世】　７代目スルタンであだ名は「征服」。1453年にコンスタンティノープルを奇策山越えで征服，ビザンツ帝国を征服，ハギア＝ソフィア聖堂の四隅にミナレット(イスラームの尖塔)をくっ付けた。同地に遷都しトプカプ宮殿を建立。黒海北岸も征服した。

【セリム１世】　９代目スルタン。メッカとメディナを保護下に置き，1517年にカイロのマムルーク朝を征服し同朝が擁立していたカリフ権を譲り受けスルタン＝カリフ制度が成立した。(と，18世紀にオスマン帝国は主張し始めた。クリミア半島のイスラーム教徒を懐柔しロシアに味方しないようにするために)。

こうしてオスマン帝国がイスラーム世界の盟主となり，イスタンブルが中心になった。

【スレイマン１世】　10代目スルタン，あだ名は「立法」。イスタンブルには10の回廊があるシナンが設計したスレイマン＝モスクがある。1526年のモハーチの戦いでハンガリーを占領，神聖ローマ皇帝カール５世はその脅威に抗するためルター派を解禁にする。スレイマン１世が1529年に第１次ウィーン包囲を解いて退却するとカール５世は再度ルター派を禁止したので，ルター派諸侯は抗議protestした。

1535年のフランス＝トルコ同盟の相手はヴァロワ朝のフランソワ１世。1538年のプレヴェザの海戦でスペイン・ヴェネツィア・ローマ教皇の連合軍に勝利した。またテンプル騎士団をロードス島からマルタ島へ駆逐した。セリム１世に引き続きサファヴィー朝ペルシアとメソポタミアを争い獲得しバグダードを占領した。

また現在のイェルサレムの城壁はスレイマン１世の時代のものである。

セリム２世の1571年のレパントの海戦(ギリシア西岸)でフェリペ２世のスペインに敗れた。『ドン＝キホーテ』の著者スペイン人(　1　)が負傷した。しかしその後チュニジアを領有し帝国領土最大となる。フランスにカピチュレーションという特権を与えた。

オスマン帝国の統治のキーワードは(　2　)。スンナ派イスラーム帝国ではあっても，各宗教共同体は尊重する柔らかい専制だ。これを(　2　)という。だからキリスト教徒も登用する。これをデウシルメといい，キリスト教徒の美少年をスルタンの近衛兵(イェニチェリ)にした。イスラーム裁判官をカーディーという。

ブワイフ朝→セルジューク朝と継承されたイクター制度を採用(アイユーブ朝・マムルーク朝でも採用)，ティマールという官吏や軍人に奉仕の代償として徴税権を与える制度が採られた。

【第２次ウィーン包囲失敗】　メフメト４世の時の1683年の第２次ウィーン包囲に失敗し(これを機にウィーンにコーヒーハウスが登場し，トルコの旗に模してクロワッサンが焼かれるようになった)，1699年のパッサロヴィッツ条約でハンガリーとトランシルバニア(現ルーマニアの西半分)を失い，オスマン帝国の衰退が始まった。1700年からの30年間はアフメト３世の時代でチューリップ時代と呼ばれフランス趣味が開花した。1774年のキュチュク＝カイナルジ条約や1792年のヤッシー条約で黒海北岸クリミア半島や，ドニエプル川付近をロシアのエカチェリーナ２世により喪失(この時期カリフ権を主張し始める)した。フランス革命の1789年に改革を企てたスルタンはセリム３世だ。1807年にイェニチェリを廃して西洋式の軍制であるニザーム＝ジェディットを創設しようとしたため廃されイェニチェリにより殺害された。

イスラーム世界の中枢をオスマン(トルコ)帝国が牛耳ることへの反発から，アラビア半島中央部でアラブ＝イスラームへの回帰を目指すワッハーブ運動が起こり，第１次ワッハーブ王国ができるが，オスマン帝国のアルバニア人エジプト太守ムハンマド＝アリー（エジプトに綿花を導入した有能な人物)が討伐した。

【ギリシア独立戦争】　ムハンマド＝アリーの次なる任務はギリシアの独立阻止だった。ウィーン体制の原理原則は独立など厳禁のはずだが，イギリスのロマン派の詩人バイロンの訴えと義勇兵への参加や，フランスのロマン派の画家ドラクロワの絵画「キオス島の虐殺」による訴えにより，ギリシア助けるべしの声が上がる。ロシアもボスフォラス＝ダーダネルス両海峡からエーゲ海へのルートをオ

スマン帝国に承認させるチャンスとばかりにギリシアを支援(アレクサンドル１世)。1827年のナヴァリノの海戦でオスマン帝国は敗北，1829年のアドリアノープル条約で独立を承認，1830年のロンドン会議で国際的に承認され，バイエルン公が国王になった。ロシアの南下政策は成功した(ニコライ１世)。

【東方問題】 ムハンマド＝アリーはギリシア独立戦争の見返りにシリアを息子に占領させた。第１次エジプト＝トルコ戦争(1831～33)になる。ロシアは両海峡を通らせてもらっているのでオスマン帝国を支持，ウンキャル＝スケレッシ条約で両海峡の独占航行権を得る。南下政策大成功！

調子に乗ったムハンマド＝アリーは次にエジプト太守世襲権を要求，第２次エジプト＝トルコ戦争(1839～40)になる。ムハンマド＝アリーの野心はフランスがエジプトを支持し成就するかに見えたが，イギリスのパーマストンの巧みな外交でロンドン会議となり五国海峡条約で，ウンキャル＝スケレッシ条約は破棄されロシアの南下政策は挫折，ムハンマド＝アリーのエジプト太守世襲は認められたがシリアからは撤退することになる。

つまりイギリスのインド＝ルートは瀕死のオスマン帝国を延命させ，ロシアとムハンマド＝アリーの影響力を減退させることにより確保されたということだ。

この一連の出来事を東方問題という。パーマストンは同時期アヘン戦争(1840～42)を起こしている。

【クリミア戦争】 クリミア戦争(1853～56)はオスマン帝国内のキリスト教の聖地イェルサレム(正確にはキリスト誕生の地ベツレヘム教会の鍵)の管理権をカトリックの世俗代表ナポレオン３世とニコライ１世が争い始まった戦争だ。パン＝スラヴ主義に抗するパン＝ゲルマン主義の盟主オーストリア・ロシアの南下政策を警戒するイギリス，ナポレオン３世に恩を売りたいサルデーニャ王国，クリミア半島をロシアから奪還したいオスマン＝トルコがフランスを支持した。戦場看護に(　3　)が活躍したセバストーポリの戦いでロシアは敗れ1856年のパリ条約でオスマン帝国の領土は保全となる。ルーマニアの自治が事実上認められた。両海峡は閉鎖されロシアの南下政策は再度挫折した。

【タンジマートとミドハト憲法】 オスマン帝国も近代化を試みるが破綻する。1826年にはイェニチェリを全廃し西欧的軍隊に再編成した。しかし1838年にカピチュレーションの延長としてイギリスに市場を開放し経済は破綻。翌1839年にアブデュルメジド１世が十月勅令によりタンジマート(恩恵改革)を断行するが1875年には経済が完全破綻した。アブデュルハミト２世は1876年にはアジア最初の憲法であるミドハト憲法を(ミドハト＝パシャによる)制定するが，翌年ロシア＝ト

ルコ(露土)戦争が勃発し憲法を停止した。

【ロシア＝トルコ(露土)戦争】　なんとか南下したい，両海峡を通りたいロシアは最後の手段にでる。ツァーリつまりギリシア正教徒の保護者(ボスニア＝ヘルツェゴヴィナでの正教徒の運動をオスマン帝国が踏み潰した事件が背景にある)とパン＝スラヴ主義の盟主というカードを２枚同時に切って1877年トルコに戦争を仕掛けた。

　ロシアが勝利し1878年のサン＝ステファノ条約で，セルビア・モンテネグロ・ルーマニアのオスマン帝国からの独立が決定。ブルガリアはオスマン帝国領のブルガリア人の自治国となりロシアの保護国となったのでロシアはエーゲ海に直接出口を得た。ロシアの南下政策は大成功，上機嫌！

　しかしロシアの上機嫌はイギリスの不機嫌。ディズレーリ首相が猛反発。英露戦争の危機！これを調停したのが誠実なる仲介人ビスマルク・ドイツ首相だ。ビスマルクとしては1871年にようやくドイツを統一したのにここでヨーロッパに戦争が起きたらドイツが分裂してしまう。

【1878年ベルリン会議・条約】

①セルビア・モンテネグロ・ルーマニアの独立承認

②ブルガリアは縮小しロシアの保護権は削除(ロシアの南下政策は結局失敗)

③イギリスは(　4　)獲得(オスマン帝国から)

④フランスはチュニジアの優先権獲得(フランスの目をアルザス・ロレーヌからそむけるためのビスマルクの計略)

⑤オーストリアはボスニア＝ヘルツェゴヴィナの管理権獲得(これが1914年のサライェヴォ事件につながっていく)

　1881年フランスはチュニジアを1882年イギリスはエジプトを事実上保護国化する。

【1908年青年トルコ革命】　1889年フランス革命100年目の年，パリ留学のトルコ人の秘密結社として始まった青年トルコ(統一と進歩団)はミドハト憲法復活を要求した。1906年にギリシアのサロニカでエンヴェル＝パシャを指導者として始まり無血革命に成功。その結果，

①憲法が復活し議会が再開

②アブデュルハミト２世が退位

③ブルガリアが独立宣言

④オーストリアがボスニア＝ヘルツェゴヴィナを併合(セルビア系住民の反発増大)

⑤イタリア＝トルコ戦争でイタリアがトリポリ＝キレナイカを獲得し古名リビア

を復活
⑥セルビア・モンテネグロ・ブルガリア・ギリシアがバルカン同盟を結成。

　結局，第１次バルカン戦争でバルカン同盟と争ったオスマン帝国が領土を失うが，ブルガリアが取り過ぎたとしてバルカン同盟(＋ルーマニア・オスマン帝国)から攻められたのが第２次バルカン戦争。ブルガリアはスラヴ諸国から離反し三国同盟側で第一次世界大戦に参戦する。

　1912年イリリア人の国アルバニアがオスマン帝国から独立する。

【第一次世界大戦】 1914年エンヴェル＝パシャの親ドイツ政策から第一次世界大戦で同盟国側で参戦した。イギリスはこれを口実にエジプトを正式に保護国化した。1915年オスマン政府は東部のアルメニア人大虐殺を行った。1920年のセーヴル条約の結果ギリシアがイズミルを占領し続けると，ガリポリの戦いでイギリスに勝利したムスタファ＝ケマルつまりケマル＝パシャはアンカラ臨時政府を結成しスルタン政府に対抗，セーヴル条約を認めず連合国と対抗しソ連の支持を取り付けた。トルコ国民軍を率いてギリシアを撃破，イズミル(スミルナ)と東トラキアを奪回した。1922年にはスルタン制度が終わりオスマン帝国は終焉した。

【トルコ共和国】 1923年のローザンヌ条約でイスタンブル周辺の東トラキアと全小アジアを確保した。イスタンブルを首都としてトルコ共和国が建国，初代大統領はケマル＝パシャ。後にはトルコ国民党の一党独裁に移行する。トルコが多民族国家から国民国家になった。1924年にはカリフ制度が廃止となる。トルコ共和国の基本方針は政教分離・脱イスラームの世俗主義(ケマル主義)。アラビア文字は廃止されアルファベットを採用。太陽暦に切り替え，国際連盟に加盟した。女性の立場に関しては，婦人参政権が付与されチャドル(ベール)は禁止され一夫一婦制となる。1934年に議会はケマルにアタテュルク(トルコ人の父)の称号を贈った。トルコ共和国では2002年の選挙でイスラーム政党が大勝した。国内にはクルド人問題を抱えている。

【サウジアラビア現代史】 アラブ独立運動の指導者フサインは1916年にアラビア半島西岸にヒジャーズ王国を建設し，独立を宣言した。しかしイスラーム教ワッハーブ派のイブン＝サウードに敗れ1924年に併合されヒジャーズ＝ネジド王国となりメッカ・メディナも征服された。この国が1932年にサウジアラビア(サウード家のアラビア)として発展した。アラビア半島南端のイエメンはトルコの撤兵とともに1918年にシーア派の一派が独立を実現した。

## 2 エジプト史

「エジプトはナイルの賜物」これは紀元前５世紀のギリシアの歴史家ヘロドトスの言葉だ。

【古代エジプト】　エジプトは閉鎖的な地形で比較的侵入を受けにくいアフロ＝アジア語族の世界だ。ナイル流域にあった集落ノモスを上エジプト（上流）の王が統一した。

前６世紀のアケメネス朝ペルシアによる征服まで26の王朝が続くのだが，第３～６王朝が古王国時代で都は下エジプトのメンフィス，第４王朝の時ギザに三大ピラミッドがつくられた。クフ王のものが最大，近くにスフィンクスがある。ギザはナイル左岸にありカイロの対岸の町だ。

第11～12王朝の中王国時代の都はテーベ（現ルクソール）。町の守護神がアモンだから，太陽神ラーと結びつきアモン＝ラーが多神教の頂点に立った。エジプトの王ファラオ（「大きな家」の意）は太陽神ラーの化身だ。

セム系のヒクソスの侵入で中王国は滅亡するが，ヒクソスを撃退し，第18～20王朝の新王国時代になる。トトメス３世の時に領土は最大になり，現スーダンにかけて広がるヌビア砂漠からシリアにかけてを版図とした。テーベにはアモンのカルナーク神殿を建てた。アメンホテプ４世はアトンの一神教にし自らイクナートンと名乗り（　5　）に遷都した。次のツタンカーメンはアモン神に戻し中心もメンフィスやテーベに戻した。

前13世紀の第19王朝のラメス（ラムセス）２世は小アジアのヒッタイト王国とのカデシュの戦いに勝ったと吹聴し記念碑としてアブシンベル神殿をヌビア砂漠に造る。モーセに率いられたヘブライ人の「出エジプト」はこの頃と言われる。

異民族王朝の時代を経て前７世紀前半にはエジプトはアッシリアに征服された。武断政治のアッシリアから第26王朝がサイスを都に独立するが，前525年にはアケメネス朝ペルシアのカンビュセス２世により征服され以後約200年イラン人の支配を受けることになる。

アケメネス朝ペルシア以降は→アレクサンドロス大王→プトレマイオス朝エジプト→ローマ帝国→東ローマ（ビザンツ）帝国→アラブ人（正統カリフ時代→ウマイヤ朝→アッバース朝→ファーティマ朝）→イラン人（アイユーブ朝）→トルコ人（マムルーク朝→オスマン朝）→イギリス人（大英帝国）の支配を受ける。

【エジプト革命とエジプト現代史】　第一次世界大戦後にエジプトではワフド党

のザグルール＝パシャにより反英運動が高まり1922年に形式的に1936年には完全独立を果たした。ただしアルバニア系のムハンマド＝アリー王朝のファールーク国王はイギリスの傀儡（操り人形）でスエズ運河だけはイギリスが所有したままだった。

1952年自由同胞団によるエジプト革命でファールーク国王は追放され，ナギブを大統領にエジプト共和国が建国された。第２代ナセル大統領は社会主義的政策を採りソ連や東欧諸国に接近したので，英米はアスワン＝ハイダムの建設資金の融資を凍結，これに対しナセルはスエズ運河国有化宣言（1956）で対抗し資金を調達した。これが第２次中東戦争の原因だ。第３次中東戦争（1967）ではイスラエルにシナイ半島とガザ地区を奪われたが，その後第３代大統領サダトが親米路線に転じイスラエルを訪問，1978年のキャンプ＝デーヴィッド合意（カーター米大統領，ベギン・イスラエル首相）でシナイ半島を奪還したがサダトはイスラーム原理主義者に暗殺された。第４代のムバラク大統領も親米路線を継承していたが，2011年の「アラブの春」で失脚。ムスリム同胞団系の政権となったが，軍主導の世俗勢力につぶされた。

古代のアレクサンドリアに開設された研究機関で学芸の神ミューズからとられたのがムセイオン。ミュージアムの語源。平面幾何学を大成したのがエウクレイデス（ユークリッド）地球の公転と自転，太陽中心説がアリスタルコス。地球を球形と考え周囲の長さを影の角度から計算したのがムセイオンの館長エラトステネス。浮体の原理・てこの原理を発見したのが第２回ポエニ戦争でローマ兵に殺されたアルキメデス。

ロゼッタ＝ストーンはナポレオンのエジプト遠征の際1799年に発見された。上から順に神聖文字（ヒエログリフ）・民用文字（デモティック）・ギリシア文字の３書体で刻まれている。ギリシア文字ということはプトレマイオス朝時代の碑文であることの証だ。

## 3 イェルサレム・パレスチナ史

今から3000年前にダビデがヘブライ王国の都をイェルサレムに定めた。前７世紀のアッシリア王国の攻撃は奇跡的に撃退したが，前６世紀のカルデア人の新バビロニア王国には滅ぼされ，強制連行された（バビロン捕囚）。この時期にヘブライ人に救世主メシアの出現を予告する預言者が登場した。メシアの役割を果たしたのがアケメネス朝ペルシアの王，ヘブライ人の「解放者」キュロス２世だ。アケ

メネス朝は寛容な政策を採りヘブライ人に故国への帰還とイェルサレムに(　6　)の神殿の再建を許可した。

アレクサンドロス大王による征服，セレウコス朝シリアによる支配とヘレニズム化が進行すると，前2世紀にヘブライ人(ユダヤ人)のマカベア家がハスモン朝をつくり抵抗した。

共和政ローマのクラッスス将軍によりセレウコス朝は平定され，前63年イェルサレムもローマ帝国の属州ユダヤになる。

そのユダヤにイエスが登場すると，ユダヤ人はイエスをメシア(キリスト)かと期待したが，イエスがユダヤ人の体質を批判したのでイエスをローマ帝国に訴え処刑した。

70年にはローマのティトゥス将軍によりイェルサレムは壊滅し，前6世紀に再建された神殿の西の壁(嘆きの壁)のみが残された。

生き残ったユダヤ人は死海の畔のマサダの要塞に立て籠ったが結局ローマ軍に包囲され自刃した(73)。

ローマ五賢帝のハドリアヌスの時バルコクバが再び抵抗を企てたが(第2次ユダヤ戦争)，鎮圧されユダヤ人は離散(ディアスポラ)した(135)。この時からイスラエルはパレスチナとなりイェルサレムもローマの神の名前に変えられた。ディアスポラは1948年のイスラエル建国まで続くことになる。

以後パレスチナは，ローマ帝国→東ローマ(ビザンツ)帝国→イスラームの正統カリフ→ウマイヤ朝→アッバース朝→セルジューク朝→イェルサレム王国(第1回十字軍)→アイユーブ朝→マムルーク朝→オスマン帝国(現在のイェルサレムの城壁はスレイマン1世の時代のもの)の支配を経て20世紀を迎えることになる。

【パレスチナ現代史】 1894年フランスでユダヤ人将校の冤罪事件ドレフュス事件が起きると，スイスのバーゼルで(　7　)を中心に第1回シオニスト会議が開かれシオニズム運動(シオンに帰ろう！)が始まった。シオンとはイェルサレムにある丘でキリストが「最後の晩餐」を催した場所やダビデ王の棺がある。

第一次世界大戦中，オスマン帝国との戦いを優位に進めたいイギリスはアラブ人の首長にトルコ人への反抗と引き換えにイェルサレムの管理を約す。フセイン・マクマホン協定(1915)だ。さらに三国協商のフランス，ロシアとはトルコ領東アラブの分割を密約する(サイクス・ピコ協定，1916)。さらにはユダヤ財閥ロスチャイルド家の資金援助を引き出すためにバルフォア宣言(1917)でユダヤ人にイェルサレムの管理を約す。いわゆるイギリスの三枚舌外交だ。

結局戦後，イラク，トランスヨルダン，パレスチナはイギリスによる，シリア，

レバノンがフランスによる国際連盟委任統治領となった。ロシアは革命で消滅したので英仏の山分けとなった。

【イスラエル建国と第１次中東戦争】 パレスチナにおけるイギリスの委任統治の期限が切れる前年の国際連合パレスチナ分割決議案に基づき1948年にイスラエル（ギリギリまで名称はシオンだった）の建国が宣言されると同日，第１次中東戦争が勃発した。イスラエルが領土を拡大し，パレスチナ難民が発生した。ちなみにパレスチナ人とは概してアラブ人でイスラーム教徒だ。

【第２次中東戦争】 第２次中東戦争ではイスラエルは英仏と共にエジプトと戦った。

【第３次中東戦争】 1964年にPLO（パレスチナ解放機構）が結成され，さらには1967年にエジプトのナセルがアカバ湾チラン海峡を封鎖したのでイスラエルが先制攻撃をかけ第３次中東戦争になる。イスラエルは６日間でゴラン高原（シリアから）ガザ地区とシナイ半島（エジプトから）東イェルサレムを含むヨルダン川西岸地区を占領した。

OPECは第３次中東戦争では反イスラエルには結集しなかった。

1968年にはOAPEC（アラブ石油輸出国機構）が結成された。

【第４次中東戦争】 イスラエルの最大の祭りの日にアラブ諸国が奇襲攻撃をかけたのが第４次中東戦争。結果は領土変化なし。OAPECが石油戦略をとり第１次オイル＝ショックとなる。その後1978年のキャンプ＝デーヴィッド合意でシナイ半島はエジプトに返還した。1987年からイスラエルの占領地ヨルダン川西岸でパレスチナ人の蜂起（　8　）（実際は投石）が始まり政治的互助組織ハマスの活動も始まった。

【オスロ合意】 1989年冷戦が終結するとノルウェーが仲介に乗り出しオスロ合意がホワイトハウスの庭で発表された。内容は，イスラエルがガザ地区とヨルダン川西岸の町イェリコにおけるパレスチナ人の暫定自治を承認すること。クリントン米大統領，ＰＬＯアラファト議長，イスラエル首相ベギンが発表した。

ラビンはイェリコのみならずヨルダン川西岸全体からの撤退も開始したので，ユダヤ原理主義者により暗殺された。

ユダヤ人の歴史は苦難そのもの。

キリスト教がローマ帝国の国教になるとユダヤの会堂シナゴーグは閉鎖され，レコンキスタ運動ではスペインを追われ，シェークスピアの『ベニスの商人』では悪徳商人といえばユダヤ人，19～20世紀初頭ロシアでは（　9　）（大虐殺），そしてナチス＝ドイツによるホロコースト（ガス室）。

同胞の命の大切さを誰よりも自覚しているユダヤ人が自らの首相を殺した。

ラビンの政党の労働党よりも神ヤハウェと族長アブラハムの約束に固執する政党リクードのネタニヤフ首相もパレスチナ人の自治区拡大路線を継承した。

【第２次インティファーダ】 しかし2000年。選挙キャンペーン目的で野党の党首シャロンがイスラームの岩のドームがある神殿の丘(ハラム＝アッシャリーフ)を歩いたことが，パレスチナ人を刺激し第２次インティファーダとなりパレスチナ問題は泥沼化する。原因はパレスチナ人が自治国家を形成しても東イェルサレムをその首都にはさせないというイスラエル側の一貫した態度にある。

イスラエルは2005年ガザ地区からの撤退を開始，ヨルダン川西岸にもフェンスを築きユダヤ人入植地をパレスチナ人居住地区と隔てることにより放棄し，ユダヤ人人口が圧倒的に多いイスラエルに変容しようとしている。

その間隙をついてガザ地区を過激なハマスが支配，ヨルダン川西岸を支配する穏健派ファタハとは激しく対立。また，ハマスがイスラエルを攻撃したので，イスラエルは2008～09年にかけてガザ地区に侵攻した。2017年，ファタハとハマスが歩み寄った。2019年ガサ地区のハマスとイスラエルが再度交戦。

## 4 イラク・イラン・アフガニスタン近現代史

メソポタミア史つまりイラク史。

世界最古の農耕の遺跡ウガリト→シュメール人→アッカド王国→バビロン第１王朝(古バビロニア)→ヒッタイト→カッシート→アッシリア→新バビロニア→アケメネス朝ペルシア→アレクサンドロス大王→セレウコス朝シリア→パルティア→ササン朝ペルシア→正統カリフ→ウマイヤ朝→アッバース朝→ブワイフ朝→セルジューク朝→イル＝ハン国→ティムール帝国→オスマン帝国→イギリス委任統治→イラク王国(1932)。

【第一次世界大戦後のイラク】 イラク王国の国王はフセイン・マクマホン協定のフセイン(ハーシム家)の三男ファイサル。フランス軍によりダマスクスを追放されイラク王になった。

1955年のイラク＝トルコ相互防衛条約を基礎にバクダード条約が結ばれ，反共軍事同盟ＭＥＴＯ(中東条約機構)が発足した。加盟国はトルコ・イラク・イラン・パキスタン・イギリスの５カ国。1958年カセム将軍のイラク革命でファイサル２世は殺害されイラク共和国となった。その第２代大統領がサダム＝フセイン，バース党首だ。バース党は反資本主義・反アメリカ・反イスラエルの政党だ。イラク

革命でイラクがＭＥＴＯから脱退すると1959年にはＣＥＮＴＯ(中央条約機構)が結成されアンカラに本部が置かれた。この同盟は1989年のイラン革命で崩壊した。

【イラン近現代史】 サファヴィー朝ペルシアはアフガン族によって滅亡したが，1736年にナーディル＝シャーが首都イスファハーンを奪回して台頭しアフシャール朝を建設した。1739年にはインドへ侵攻して一時占領し，中央アジアに進出しブハラ＝ハン国を服属させ1745年には西から侵攻してきたオスマン帝国を撃破した。しかし彼は暗殺され王国は分裂状態，1757年には武将のカリーム＝ハンがザンド朝を建国，首都は当初シラーズのちにテヘランに遷都した。

1796年にアフシャール朝の武将でトルコ系のアーガー＝ムハンマドがザンド朝を滅ぼしカージャール朝を建国した(～ 1925年，首都テヘラン)。カージャール朝はトルクメンという遊牧民族，つまりトルコ系の少数支配という形態をとったので支配は抑圧的だった。

カージャール朝は1828年にロシアと(　10　)を結んだ。既に1813年のグリスターン条約でアゼルバイジャンはロシアに取られていたが，国境紛争が再燃し結局，治外法権を認める不平等条約で決着がつきアルメニアを含むザカフカスがロシア領となった。

1848 ～ 52年のバーブ教徒の乱はサイイド＝アリー＝ムハンマドがマフディーを宣言したシーア派の改革運動で男女平等などを主張したが処刑され終結した。バーブとは12イマーム派の12代イマームへの「門」を意味し救世主的思想が強かった。弾圧を逃れたバーブ教徒の多数派がバハーイー教徒となった。

1891 ～ 92年には(　11　)が起きた。第４代ナッセレディーン＝シャーがタバコの原料買い付けから販売権までをイギリス商人に与えたことへの全国民的抗議運動が起き，シーア派の宗教界による喫煙禁止令を引き起こした。それはパン＝イスラーム主義(反帝国主義)革命家アフガーニーの煽動によるものだった。この民族運動の結果,利権回収には成功したが多額の外国借款を抱え込むことになった。

1905年の日露戦争の日本の勝利とロシアの敗北はイランを覚醒させ,国会開設・憲法制定を要求するイラン立憲革命(～ 1911)を引き起こした。憲法こそが日本の勝利の要因だと考えた。その間の1906年には国会も召集された。

1907年の英露協商ではイラン北部がロシアの,南部がイギリスの権益となった。1908年には議会派と国王派との内戦になり1911年にはそれに乗じたロシアが議会派の拠点タブリーズに軍事介入した。

1914年に勃発した第一次世界大戦では中立だったものの英露両軍が進駐した。

【19世紀アフガニスタン史】 アフガニスタンはイランのアフシャール朝のナー

ディル＝シャーの死を機にアフガン族が統一した。「アフガン」というのはペルシア語の他称で自称はパシュトゥーン人でイラン（アーリア）人とセム系の混血だ。アハマッド＝シャー＝ドゥラッニーが部族連合の長に選出された結果できたのがドゥラッニー朝（1747 ～ 1842）で首都カーブル。

アフガニスタンは部族連合的性格が強く国王も部族長の第一人者。交通の要衝ヘラートを巡りカージャール朝ペルシアと抗争した。ロシアがカージャール朝を支援するとイギリスはアフガニスタンを援助。カージャール朝は1856年にアフガニスタンの独立を承認した。しかしアフガニスタン国王がロシアに接近する動きを見せるとイギリスは過剰に反応し，1838 ～ 42年まで第１次アフガン戦争，1878 ～ 80年に第２次アフガン戦争となった。1878年のベルリン会議でロシアのエーゲ海方面への南下政策が阻止されたので，ロシアのインド洋への野心が本格化するのを見越してイギリスは1880年アフガニスタン新国王アミール＝アブドゥル＝ラフマーンを保護下に置くことに成功し，親英的緩衝国家とした。ちなみに英領インド帝国の成立は1877年だ。その後第３次アフガン戦争の結果，1919年のラワルピンディー条約でイギリスはアフガニスタンの独立を承認した。

【パフレヴィー朝のイラン】 ロシア革命の影響はカージャール朝ペルシアの北西部に波及し1921年にはホラサーン地方に革命政権ができた。イギリスはカージャール朝政府を事実上支配していたが，それが民衆の反発の原因となっていた。1921年に成立したコサック（政府）軍の指導者レザー＝ハーンがクーデタで軍事独裁体制が成立した。ロシアの共産党政権と条約を結び帝政ロシアと結んだ（　10　）以来の不平等条約を撤廃，イギリスも石油の利権と引き換えに新政権を承認した。

1925年がパフレヴィー朝（～ 1979）が成立した。1941年までレザー＝ハーン（レザー＝シャー）の独裁体制，トルコのケマル型の世俗路線をしいた。ペルシア語からアラビア語を排除し西欧語の語彙を取り入れるよう努めた。1928年には外国の治外法権を撤廃，1935年には国名をイランに改名した。第二次世界大戦では中立。1941年には英露が進駐，親ナチと見なされたレザー＝シャーは退位，ムハンマド＝レザー＝パフレヴィー２世が即位した。1942年にテヘラン会談をチャーチル・フランクリン＝ローズヴェルト・スターリンが開いた。石油資源豊富なイランで冷戦の両雄が初めて対峙した。

モサデグ政権崩壊後に復位したパフレヴィー２世は1963年に（　12　）を宣言し脱イスラーム色を鮮明にした。また議会を停止し国王独裁による上からの近代化を試みた。土地革命・婦人解放政策を実施，それに反対するシーア派のイマー

ムの（　13　）を国外追放にした。（　13　）はイラク南部のナジャフに住んだ。
【イラン革命】　パフレヴィー２世の秘密警察体制に不満を持った首都テヘランのバザールの商人たちが（　13　）を擁立しパフレヴィー朝を打倒したのが，イラン＝イスラーム革命だ。シーア派の宗教国家の誕生だ。女性のサッカー観戦は許されない。

革命時にはアメリカ大使館員が444日間も監禁された。

【イラン＝イラク戦争】　このイラン＝シーア派革命は国内に60％のシーア派を抱えるイラクのサダム＝フセイン，スンナ派政権にとってははなはだ迷惑な革命だった。また王家が打倒された革命の波及はサウード家のサウジアラビア，サバハ家のクウェートにとっては断固防がねばならないものだ。言うまでもなくアメリカはイランの革命政権は仇敵だ。

これら３国の資金と武器の支援を背景にイラクはイランに攻め込んだ。

イラン＝イスラーム革命時にテヘランの大使館員を人質にされたカーター政権の次のレーガン大統領は，テヘランの人質解放と交換条件に武器を売却した。こうしてイラン＝イラク戦争はアメリカ製武器の在庫処分の場となった。さらにレーガンは売却代金を中米ニカラグアのサンディニスタ社会主義政権に抗するゲリラの活動資金とした。

【湾岸戦争】　イラン＝イラク戦争終了時にクウェートが融資資金の返済を迫ったので，サダム＝フセインはクウェートに侵攻した。これが1990年の湾岸危機だ。ブッシュ大統領（父）は多国籍軍を結成し，湾岸戦争（1991）でクウェートから撤退させた。サダム＝フセインの不満はイスラエルが第３・４次中東戦争後の国連決議を無視しゴラン高原・ガザ地区・ヨルダン川西岸を占領し続けてもお咎めなしであることだ。

湾岸戦争後もフセイン対策として米軍がアラビア半島に駐留したことは，それを聖地に対する冒涜と憤るイスラーム原理主義者ビン＝ラーディンが首領であるテロ組織アル＝カーイダの活動を促すことになる。

【イラク戦争】　2001年９月11日の同時多発テロの後，ブッシュ大統領（子）はイラク・イラン・北朝鮮を「悪の帝国」と呼んだ。予防的先制という理屈を駆使し2003年イラク戦争に踏み切りサダム＝フセインを捕らえ新生イラク政府に引き渡す。イラクが民主化したので多数決の世界になり，スンナ派政権によりサダム＝フセインは処刑された。サダム＝フセインは反イスラエルのバース党の党首だった。スンナ派の過激組織であるアル＝カーイダが改編を繰り返し，ＩＳ（イスラーム国）となるが，これには旧フセイン政権の官吏や軍人も参加しており，対シ

ーア派抗争をしつつシリアにまたがる地域を制圧したが，2017年にイラクとシリアでＩＳの勢力は減退した。

## 5 アフリカ分割とアフリカ現代史

【イギリス】　イギリスの宣教師で探検家のリヴィングストンはヴィクトリア瀑布を発見した。消息不明になった彼を救出したのがアメリカの探検家スタンリー。

イギリスはアフリカ大陸縦断政策でカイロ～ケープタウンをつなぐ。インドのカルカッタと合わせ３Ｃ政策となる。

フランス人レセップスが1869年に開削したスエズ運河株を1875年英首相ディズレーリがユダヤ財閥ロスチャイルド家と絡み買収すると，エジプトのウラービーの乱が起きる。イスラームの大同団結を目指すパン＝イスラーム主義の精神的指導者(　14　)の影響である。

イギリスがスーダンに南下すると，ムハンマド＝アフマドがマフディー（救世主)を宣言し反乱を指導，太平天国の乱の常勝軍のゴードンが戦死した。

フランスのアフリカ横断政策と1898年に南スーダンで衝突。ファショダ事件という。フランスが譲歩しスーダンはイギリスの勢力圏となった。また，イギリスはアシャンティ王国(現ガーナ)も攻略した(1901)。

1815年のウィーン議定書でケープ植民地がナポレオン１世の弟のオランダ支配からイギリスに移りセシル＝ローズが同地の首相となった。オランダ系移民の子孫ブール(ボーア)人は内陸部にグレート＝トレック(大移動)しオレンジ自由国とトランスヴァール共和国を建国した。ここにダイヤモンドそして金が発見されると，植民地相ネヴィル＝チェンバレン指導で南アフリカ(ブール・南ア)戦争(1899 ～ 1902)で侵略した。セシル＝ローズにちなむローデシア(現在北がザンビア・南がジンバブエ)もイギリスの勢力圏だったからブール人は挟み撃ちになる。典型的な帝国主義戦争に国際的非難を浴び「光栄ある孤立」を放棄したイギリスは1902年に日英同盟を結ぶ。前年ヴィクトリア女王も世を去り大英帝国が斜陽の季節を迎える。

1910年イギリスはケープ・オレンジ・トランスヴァール・ナタール州から成る南アフリカ連邦を成立させた。白人のブール人をアフリカーナーとして優遇したことが1948年のアパルトヘイト(人種隔離政策)の法制化につながる。

【フランス】　フランスはシャルル10世の1830年にアルジェリアを攻略，1878年のベルリン会議の取り決めに基づき1881年チュニジアを保護国化した。アフリカ

の角ソマリランドのジブチを領有し(1888)横断政策の東端となった。またマダガスカル島も領有した(1896)。

1904年の英仏協商でフランスに優先権が認められたモロッコのタンジールにドイツ皇帝ヴィルヘルム２世が入港し威嚇した(1905年の第１次モロッコ事件)。1906年のアランフェス会議でドイツのモロッコ進出は頓挫する。

こりないヴィルヘルム２世は1911年に今度はアガディールに軍艦を派遣(第２次モロッコ事件)。業を煮やしたフランスは1912年にモロッコを保護国化した。

ドイツはトーゴランド・カメルーン・南西アフリカ(現ナミビア)・マジマジの乱が起きた東アフリカ(タンガニーカ，現タンザニア)の４箇所。

イタリアはエリトリア・ソマリランド・トリポリ・キレナイカ(1911 ～ 12年のイタリア＝トルコ戦争でオスマン帝国から獲得，現リビア)の３箇所。

ポルトガルはアンゴラ・モザンビークの２箇所。

ベルギーはレオポルド２世がスタンリーのコンゴ川流域探検を援助し領有。列強の反発にビスマルク開催のベルリン会議(1884 ～ 85)で「先に占領した国が領有できる原則(先占権)」を確認した。ベルギー領コンゴ自由国は1908年に列強に承認された。

第一次世界大戦勃発時の独立国はエチオピアとリベリアの２つ。エチオピアは1896年のアドワの戦いでイタリアを撃退。リベリアは1847年にアメリカ合衆国のアメリカ植民協会がつくった国だ。

【戦後アフリカ史】　第二次世界大戦終結時の独立国はこれにエジプトと南アフリカを加え４つ。

リビアは1951年に連合王国として英仏から独立。1969年から共和国となりカダフィが指導者。

1956年にはスーダンが英・エジプトから，モロッコが仏・スペインから，チュニジアが仏から独立。

1957年には，ガーナが最初の黒人独立国家として英より独立，エンクルマが指導者。

1958年には，ギニアが仏より独立，セク＝トゥーレが指導者。

1960年は「アフリカの年」といわれ，17カ国が独立，その大半はド＝ゴール政権のフランスからの独立だ。

1960年コンゴがルムンバの指導でベルギーから独立する時にカタンガ州の資源を巡りベルギー・アメリカが介入しコンゴ動乱(1960 ～ 65)となった。結果モブツ親米独裁政権となりザイール(1971)→コンゴ民主共和国(1997)と改称された。

ナイジェリアはイギリスから独立した。

1963年にはアフリカ統一機構(OAU)がアフリカ独立諸国首脳会議で結成された。

南アフリカ共和国は1961年にイギリス連邦から分離独立した。アパルトヘイトはデクラーク大統領の1991年に法的に撤廃，アフリカ民族会議(ANC)議長マンデラが釈放され大統領になった1994年に完全撤廃された。

アルジェリアはベン＝ベラが指導し1962年のエヴィアン協定でド＝ゴールのフランスから独立した。

アンゴラ・モザンビークはポルトガルのサラザール政権崩壊後の1975年に，東南アジアのブルネイと共に独立した。

1980年には南ローデシアがジンバブエとしてイギリスから独立。

1990年にはナミビアが南アフリカから独立。

1994年から(　15　)で内戦となった。ベルギー統治下で優遇されていた少数派の牧畜系ツチ族に対し独立後に農耕系のフツ族が復讐し80万人が虐殺された。

第一次世界大戦中のイギリスの３枚舌外交

（１）年〔　２　〕…（　３　）との約束

（４）〃〔　５　〕…（　６　）の密約

（７）〃〔　８　〕…（　９　）との約束

（ 10 ）年トルコ共和国

（ 11 ）年（ 12 ）朝

〝イラン（1935 ～）〟

リヤド…（ 16 ）家の（　17　）による

（ 18 ）王国は第３次

（　19　）王国

↓

1928 ヒジャーズ＝ネジド王国

↓

（ 20 ）年〔　21　〕王国

首都（ 22 ）

（ 13 ）家（ 14 ）による

（　15　）王国（1916）

シリア……1946年に（　23　）の委任統治終了

レバノン…1943年に（　24　）　　〃

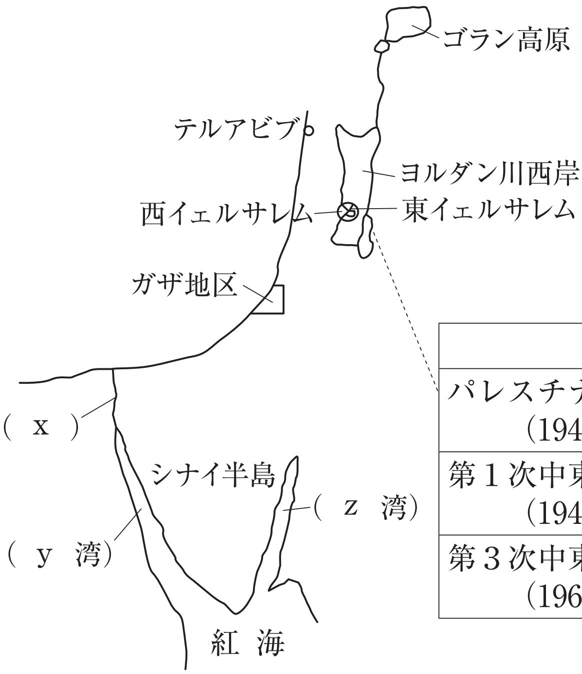
イラク……1932年に（　25　）　　〃　　し，

（　26　）家のファイサル１世（３男）

しかし，1958年（　27　）将軍によるイラク革命でファイサル２世が殺害され，現在イラク共和国

トランスヨルダン…1946年委任統治が終了し２男アブドゥッラー即位。

現在（　　28　　）王国




| | 西イェルサレム | 東イェルサレム(ヨルダン川西岸地区) |
|---|---|---|
| パレスチナ分割案(1947) | ア | |
| 第１次中東戦争後(1948) | イ | ウ |
| 第３次中東戦争後(1967) | エ | オ |

国連決議478号で1980年いかなる国もイェルサレムに大使館を置いてはならない

↓

1995年アメリカ議会はテルアビブからイェルサレムに在イスラエル，米国大使館の移転を決定

↓

2018年トランプ大統領が移転を断行，イスラエルのネタニヤフ首相と会談

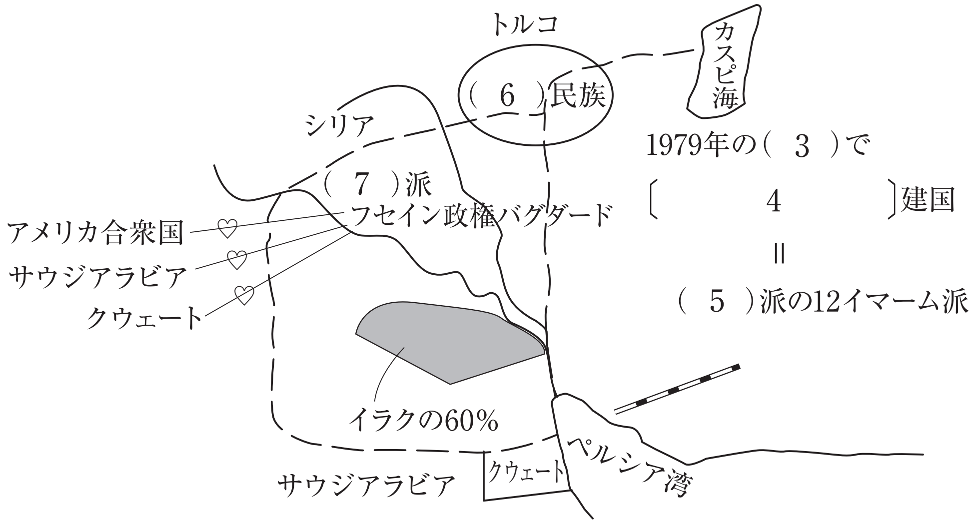
第１次中東戦争（　1　）年の原因は（　　　　　　2　　　　　）であり，
結果（　3　）が領土を拡大。（　4　）と（　5　）がそれぞれ（　6　）・（　7　）を占領したので大量の（　　8　　）が発生し，（　9　）・（　10　）・（　11　）・（　12　）に流入した。第２次中東戦争（ 13 ）年の原因は（　　14　　）であるがその原因は（　　　　　15　　　　　）である。（ 16 ）・（ 17 ）・（ 18 ） VSナセルのエジプトという構図で戦われた。第３次中東戦争（ 19 ）年の遠因は（　20　）の成立。近因は（　21　）である。イスラエルがP19の地図の４カ所を占領した。第４次中東戦争はそのリベンジであるが，（　22　）が（　23　）を発動したので（　24　）が起こり戦後の世界経済は以後回復することなく低迷することになる。（ 25 ）年の事だ。

## イラク史

1932　ハーシム家（ファイサル）のイラク王国

1958　イラク革命（カセム将軍）がファイサル２世殺害し イラク共和国

1979　（　1　）党の（　　2　　）が第２代大統領に
反イスラエル




1980～1988　（　8　）戦争

1991　（　9　）戦争　by

2001.9.11　（　10　）……テロ組織〔　11　〕

2001.10.7～（　12　）戦争…………〔　13　〕政権一時崩壊

2003　（　14　）戦争…………〔　15　〕政権崩壊

## イラン史

1501〜1736　(　　1　　)朝

アフシャール朝→ザンド朝

1796―1925　(　　2　　)朝

1925―1979　(　　3　　)朝　初代国王(　　　4　　　)

２代目〃(　　　5　　　)

1951年(　6　)首相が(　　7　　)宣言

アメリカＣＩＡのクーデタで転覆(　8　)

と呼ばれる脱イスラーム世俗化政策

2011　アラブの春「(　9　)革命」が(　10　)に始まり

隣国(　11　)の〔　12　〕惨殺，その隣国(　13　)の

シリアの(　15　)政権 VS 自由シリア軍・〔　14　〕政権崩壊

ヌスラ戦線

(スンナ派，バース党)が合体し・　〔　16　〕が支援→ＩＳ　〔　17　〕が支援

ＩＳ(イスラーム国)に

クルド人・

# テキスト解答

## 〈下線部訂正問題 解答〉

Ｐ２　テンプル騎士団　→　ヨハネ騎士団

Ｐ３　パッサロヴィッツ条約　→　カルロヴィッツ条約

Ｐ４　十月勅令　→　ギュルハネ勅令

Ｐ５　1906　→　1908

Ｐ６　イスタンブル　→　アンカラ

Ｐ７　イラン人　→　クルド人

Ｐ８　自由同胞団　→　自由将校団

Ｐ９　クラッスス将軍　→　ポンペイウス将軍

P10　ベギン　→　ラビン

P11　ウガリト　→　ジャルモ

P12　1989　→　1979

P13　1942　→　1943

P14　悪の帝国　→　悪の枢軸

P15　ネヴィル＝チェンバレン　→　ジョゼフ＝チェンバレン

P16　アランフェス会議　→　アルヘシラス会議

P17　ブルネイ　→　東ティモール

## 〈空欄問題 解答〉

1．セルバンテス
2．ミッレト
3．ナイティンゲール
4．キプロス島
5．テル＝エル＝アマルナ
6．ヤハウェ(エホバ)
7．ヘルツル
8．インティファーダ
9．ポグロム
10. トルコマンチャーイ条約
11. タバコ＝ボイコット運動
12. 白色革命
13. ホメイニ
14. アフガーニー
15. ルワンダ

## 〈空欄解答 P18〉

1）1915
2）フセイン・マクマホン協定
3）アラブ人でヒジャーズの首長フセインと英国人外交官
4）1916
5）サイクス・ピコ協定
6）英仏露によるオスマン帝国領東アラブ地域分割
7）1917
8）バルフォア宣言
9）英外相バルフォアとユダヤ財閥ロスチャイルド家
10）1923
11）1925
12）パフレヴィー
13）ハーシム
14）フサイン
15）ヒジャーズ
16）サウード
17）イブン＝サウード
18）ネジド
19）ワッハーブ
20）1932
21）サウジアラビア
22）リヤド
23）フランス
24）フランス
25）イギリス
26）ハーシム
27）カセム
28）ヨルダン＝ハシミテ

## 〈P19の空欄解答〉

ア）国際管理地区
イ）イスラエルが占領
ウ）ヨルダンが占領
エ）イスラエルが占領を継続
オ）イスラエルが占領

x）スエズ運河
y）スエズ
z）アカバ

## 〈P20の空欄解答〉

１）1948
２）イスラエル建国
３）イスラエル
４）エジプト
５）ヨルダン
６）ガザ地区
７）ヨルダン川西岸地区
８）パレスチナ難民
９）シリア
10）レバノン
11）ヨルダン
12）エジプト（シナイ半島）
13）1956
14）エジプトのナセル大統領のスエズ運河国有化宣言
15）英米によるアスワン＝ハイダムの建設資金援助凍結
16）イギリス
17）フランス
18）イスラエル
19）1967
20）PLO（パレスチナ解放機構）
21）ナセルによるアカバ湾封鎖
22）OAPEC（アラブ石油輸出国機構）
23）石油戦略
24）第１次オイルショック
25）1973

## 〈P21の空欄解答〉

１）バース

２）サダム＝フセイン

３）イラン革命

４）イラン＝イスラーム共和国

５）シーア

６）クルド

７）スンナ

８）イラン＝イラク

９）湾岸

10）アメリカ同時多発テロ

11）アル＝カーイダ

12）アフガニスタン

13）ターリバーン

14）イラク

15）サダム＝フセイン

## 〈P22 空欄解答〉

1）サファヴィー

2）カージャール

3）パフレヴィー

4）レザー＝ハーン

5）パフレヴィー2世

6）モサデグ

7）石油国有化

8）白色革命

9）ジャスミン

10）チュニジア

11）リビア

12）カダフィ大佐

13）エジプト

14）ムバラク

15）アサド

16）ロシア

17）アメリカ合衆国

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。